



神奈川大学フロンティアクラブ会報
 発行日 2010年8月1日
 編集・発行 神奈川大学フロンティアクラブ
 組織・広報委員会
 事務局 神奈川大学総務部校友課内
 〒221-8686 横浜市神奈川区六角橋3-27-1
 TEL.045-481-5661(代)
 FAX.045-481-2741

第 14 号

この度のフロンティアクラブ定時総会で会長に選任されました鈴木実です。本クラブの着実な発展に向けて微力ながら精一杯努めさせて頂く所存です。どうか皆様のご指導・ご支援をよろしくお願い致します。

(1) 本クラブの 使命に向けて
 本クラブは一九九七年二月に発足、長年に亘りその基礎作りにご尽力下さった初代代表の故神尾秀雄氏、続いて組織改編などにご苦勞された二代目代表の皆川潔氏、両代表のご指導により12年余りが経過しました。その間、厳しい時代の変遷の中で、代表を支えられた長野定英氏(初代)・新井三夫氏(二代目)・柳沢剛氏(同)の各副代表をはじめ

生活実態、学業に対する意欲、大学の現況について会員の理解を得るよう、情報発信する。

(2) フロンティアクラブの懇親会などへ奨学生を参加させ、奨学生との交流を進める。

(1) 募金方法を多様化する
 (1) 複数年にわたる「募金予約方式」を継続実施する。

産官学共同専門委員会

委員長 小 淵 昌 夫 (42貿易卒)

一、募金方法を多様化する
 (1) 複数年にわたる「募金予約方式」を継続実施

め、世話人や会員の皆様の母校愛溢れるご努力によって当クラブは所期の目的に沿った活動を今日まで続けることが出来ました。深く感謝申し上げます。

そもそも本クラブの前身は「産業人の会」、この会は様々な分野で活躍中の卒業生有志が、母校に何らかの具体的な支援を、という熱い思いを結集して発足したものです。そして多くの活動実績を残してきましたが、その後、諸情勢の変化に伴い、この会の趣旨を継承した本クラブが誕生しました。その名も母校の建学精神を礎に「フロンティアスピリット」を持って活動すべくフロンティアクラブと命名されたものです。

こうした伝統ある経緯からも、「フロンティアの灯は何としても灯し続けなければならぬ」と改めてその思いを強くするものであります。この重い使命・役割を果たすべく新運営委員一同、心を引き締めて本会運営に当たって頂く所存であります。

(2) 厳しい経営環境
 ①ご承知の通り、少子化が進む中で志願者の減少傾向は著しく、定員割れの大学は既に全大学の半数以上に及んできています。また国や公共機関からの補助金は年々大幅に削減の方向にあること等々、学校経営には激しい変化の波が次々に押し寄せています。まさにあらゆる大学は未だかつて経験したことのない厳しい生き残り競争の場に立たされていると言えましよう。

②学生の実態も、深刻な経済情勢を背景に、授業料等の納付延滞や不払い、勉強意欲旺盛な学生が中途退学を余儀なくされるようなケースまでみられる状況です。大学当局は、安定した学生支援を行うことを目的にこの22年度から「米田吉盛教育奨学金」制度をスタートさせました。その成果が大いに期待されるところです。

(3) OBによる 支援活動活発化
 厳しい経営環境対処の一

助にと、最近多くの大学で卒業生による多角的な支援活動が展開されています。その活動体制も卒年次別・学部別・地域別等々、実にきめ細かく組織化され、母校の存続・発展に可能な限りの貢献をしようとする。各大学OBの動きは今後益々活発化する時代を迎えたとともに言えます。

本学には校友会「社団法人宮陵会」という強力な卒業生組織があり、フロンティアクラブ会員もこの会員です。そして両会とも母校の発展に寄与する共通の使命を有しています。従って今後も宮陵会と協調しつつ、それぞれの立場で一層有効で意義ある支援活動を推進することが重要であります。

(4) 当面の活動ポイント
 以上の認識に立って、二月総会では本年度事業計画が承認されました。各委員会の活動方針は別掲の通りで、今後具体的な肉付けをしながら着実に実行して参ります。

①奨学金協力活動の強化
 「村橋フロンティア奨学金」を守り育てる。本奨学金の基盤をより強固なものにし、一人でも多くの学生に経済支援できるように一層の努力をしたい。

②フロンティアサロンの活発化
 本学教員、卒業生を講師とした講演会を軸に会員相互の研鑽・交流、産官学共同事業情報の発掘・発信、在学生の意欲付けの場として、本サロン活動を更に発展させたい。

③会員の増強
 本クラブの活動をより高めるためには、会員増強が不可欠。活動の意義、活動状況を広く卒業生の皆様にご理解頂き、若手会員も豊富に擁した層の厚い組織を目指す。

本会加入への呼びかけに皆様のご協力を切にお願い致します。

今や、母校は昨年策定の将来構想の実現に向け全力で前進中です。この活動をサポートする意味でも、我がフロンティアクラブは全会員を挙げて本会目的の遂行に努力したいと考えます。引き続き皆様の温かいご支援・ご協力のほど、よろしくお願い致します。



母校の発展に更なる支援を
 各大学卒業生による支援活動が高まる

神奈川大学フロンティアクラブ会長 鈴木 実 (35貿易卒)

この度のフロンティアクラブ定時総会で会長に選任されました鈴木実です。本クラブの着実な発展に向けて微力ながら精一杯努めさせて頂く所存です。どうか皆様のご指導・ご支援をよろしくお願い致します。

母校の発展に更なる支援を
 各大学卒業生による支援活動が高まる

神奈川大学フロンティアクラブ会長 鈴木 実 (35貿易卒)

母校の発展に更なる支援を
 各大学卒業生による支援活動が高まる

神奈川大学フロンティアクラブ会長 鈴木 実 (35貿易卒)

奨学金等協力専門委員会

委員長 一 戸 英 輔 (36貿易卒)



飯田敏一委員 (45貿易卒)



岡田万久委員 (35電気卒)



一戸英輔委員長 (36貿易卒)

前任の鈴木委員長が会長に就任されることとなり、その後任を仰せつかりました。フロンティアクラブの事業には昨年度から携わることになったばかりの新参者ではありますが、本委員会が担う役割の重要性を改めて認識し、精一杯努力をしてまいりたいと考えており

本委員会では、本年度の活動方針の基本を「村橋・フロンティア奨学金の基金を一層充実させるための募金を推進する」とし、具体的な活動として、一、会員への募金協力の依頼を粘り強く推進する。そのため、学生の厳しい



古川勝彦委員 (40経済卒)



小淵昌夫委員長 (42貿易卒)

産官学共同委員会は柳沢剛前委員長が全体的な事業推進の企画・運営を司る副会長に就任するに際し、私小淵昌夫と古川勝彦が委員に就任し事業の推進に当

ることになりました。この推進に当たり大学事務局の総務部・研究支援部各位、特に、校友課と産官学連携推進室の皆さんのご協力、さらに新任鈴木実会長・各副会長のご指導のもと事業を推進して行きたいと心しておりますので、会員各位のご協力をお願いする次第です。昨年度末までに、五四回継続されている産学交流フロンティアサロンや経営学部田中則仁教授・院生との交流のフォーラム等の開催などによる成果に学び、今後ともこの産学交流フロンティアサロンを一層充実した交流の場にしていくように努力して頂く所存です。今年度少し思考を変えて



古川勝彦委員 (40経済卒)



小淵昌夫委員長 (42貿易卒)

産官学共同専門委員会
 委員長 小 淵 昌 夫 (42貿易卒)

生活実態、学業に対する意欲、大学の現況について会員の理解を得るよう、情報発信する。

(2) フロンティアクラブの懇親会などへ奨学生を参加させ、奨学生との交流を進める。

(1) 募金方法を多様化する
 (1) 複数年にわたる「募金予約方式」を継続実施

「小口募金(一口一万円)方式」により応募会員の拡大をはかる、ことといたします。

以上の各事項について懸命に取組んでまいりますので、会員の皆様のご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

会長・副会長及び各種委員会委員紹介			
会長	鈴木 実	株式会社みずほ銀行 株式会社NHKエンタープライズ	(元) 取締役 (元) 常務取締役
副会長	秋田 琢次	共和電気株式会社	(元) 顧問 (専務取締役)
副会長	柳沢 剛	独立行政法人中小企業基盤整備機構 関東支部新連携事務局	新連携支援統括プロジェクトマネージャー
副会長	實方 誠一	株式会社ハンスイ	代表取締役社長
組織広報委員会			
委員長	春原 正三郎	共和証券株式会社	取締役 (営業担当)
	村田 龍也	株式会社日本石油	取締役相談役
	清水 玄	誉田進学塾グループ	専務取締役
奨学金等協力専門委員会			
委員長	一戸 英輔	東京海上日動火災保険株式会社	(元) 常務取締役
	岡田 万久	アイメックス株式会社	取締役会長
	飯田 敏一	フジ・プロダクト株式会社	業務部 部長
産官学共同専門委員会			
委員長	小淵 昌夫	株式会社エイビーベッカー	代表取締役
	古川 勝彦	株式会社 小保組	理事

教学の先生方と交互に会員からも講師として登壇をお願いし、神奈川大学卒業後の経験、活動状況や研究テーマ等をお話して頂くことになりました。お話の前後で、内容に関する語らいを通して交流が一層深まることを期待しておりますので、万障お繰り合わせ頂き、会員の皆さんのご参加をお願いします。

いする次第です。さらに、産官学連携という視点で、フロンティアクラブ会員の知識と経験を大学や社会に貢献できるように可能性を模索し、校友課や産官学連携室と連携し、教学の先生方と相談の上、交流や支援に関する企画を提案したいと考えています。

フロンティアクラブの目指すもの

副会長 柳 沢 剛

(37工経卒)



皆川前会長が規約改正と役員の増強に取り組み、会の組織が強化されました。鈴木新会長を支え、会の活性化に努めたいと思います。

フロンティアクラブに入会するとどんなメリットがあるんですか。という質問をよく受けます。私は、会員の皆様に対して直接的なメリットは何もないかもしれませんが、と答えています。会員になった以上、会費を払う以上、メリットがなければ入会する方がいないでしょうね。ともいわれます。しかし、会員の交流懇談や大学の情報収集などは宮陵会という同窓生全体の歴史ある会がありますので、もう一つはいらぬと思いません。では何のために存在するのかということになります。が、大学の発展を一步踏み込んで支援すること、

KUFC心がかよう フロンティアクラブを目指して

副会長 秋 田 琢 次

(33電気卒)



この度副会長をお受けすることになりました秋田琢次です。フロンティアクラブは母校神奈川大学に對し大きな役割を負っており、諸先輩のご努力により着実な運営を積み重ね大きな成果を挙げてまいりました。設立以来変わらぬポリシーを胸に、果すべき使命と役割がまだまだ沢山あると思っています。

分の学び舎を支援することだと思えます。卒業した大学が立派に存続し続けることそれ自体に少々貢献できることがメリットということではダメでしょうか。会員皆様の積極的な参画と、各界でご活躍されている諸先輩の入会をお願いしたいと思います。

ではなく、姿を見せる”を意に取り組めば解決できない課題はないと思っています。この様な世相の中でフロンティアクラブの存在を認めて頂き知名度アップに繋げる起爆剤は何かを考えると第一に、ブランド創出”です。今、全国四年制大学七七八校の「魅力的な大学」の評価基準になっている項目は、授業料減免、学生支援組織・奨学金制度、サークル・団体活動、修得知識・能力の体系、授業科目の体系化、中退率(神大十一%)等々です。(昨年の大学の實力調査五二九校の九割が中退率を公表)大学の「質」の公表が義務化されています。その背景には昨年の調査で明らかにされた学生の基礎学力低下が挙げられ授業内容が理解できず、止む無く退学しなければならぬ学生の救済策として「学習支援センター」を設置した大学が二九一校ありました。(国立大でも六九%が設置)基礎学力の向上が大学の生き残り定員割れ危機排除の大きな要素になっていきます。ある大学では支援センター設置の成果がすぐに表れ毎年三〇〇〇人を超える退学者がいたのが半減したと報告されてい



ます。わが母校も建学の精神「人を造る」教育理念を継承し「米田吉盛教育奨励基金」制度新設で大学の姿勢を示し更に学生支援を講じました。フロンティアクラブの会員一人ひとりのステータスを重く受け止め、存在感ある組織の充実を第一に考え、気概を持って職責を全うしたいと思います。尚一層、開かれた会務運営のため会員各位の積極的なご意見・ご提言をよろしく、お願い申し上げます。

神奈川大学への期待と会の役割

フロンティアクラブ副会長 實 方 誠 一

(48工経卒)



私、地元神奈川出身で工学部会生産工学研究部に所属してました。就職は地元横浜でしたので、その後も大学の教職員や先輩とも交流がありました。フロンティアクラブには工業経営学科の大先輩であります前皆川代表及び柳沢副会長よりお話を頂き一昨年よりお手伝いするようになりました。この度、たいへん重責であります副会長に推挙され、身が引き締まる思いであります。

これからの活動を通し勉強をしながら微力ながら鈴木会長を補佐し貢献していきたいと思っております。現在、横浜で二〇〇人ほどの会社経営をしておりますが、上場している親会社におりました時に何百人も面接を行い採用しその後の成長を見守ってききました。

神大生も採用してありますが、みなさん小粒で会社で欲する人物は、極めて少なかったです。企業において担当者はたくさんおりますが、真にリーダーシップを持った管理者と呼べる人は少ないです。大所高所から見れるグローバルな人材が欲しいと思っております。私達の学生の頃と比べ大学の設備がたいへん良くなり、至れり尽くせりだと思えます。今の学生は、夏休みも実習して勉強をしており、たいへん真面目な印象がありますが残念ながら覇気がありません。当時工学部各学科には五、六つの研究部がありそれに所属しながら様々な実習、部員との関係構築・連帯が学問とは違う何かを身につけさせようとする狙いがあるのだと思えます。

私が本クラブに入会した時期、我々の上に立ちただかる社会の経済情勢は深刻化を増し、母校を支援し、発展に寄与する奨学金事業にも大きな厚い壁にぶつかっていました。そして時代は進み、現在、神大の在籍学生数は一九、一八八人。今の学生は、何を考え、何を望んでいるのか、以前の学生の様に夢を語れない、将来の展望も漠然としか描けないで閉塞感だけが漂っている。こうした現況に我々は卒業生として何が出るのか、母校の学生にどのような支援ができるのか、が問われ、多くの課題が山積んでいます。意欲を言葉

上ない喜びであると思っております。卒業生の繋がりによって各々が各企業でさらに活躍・社会貢献する。その方々が神奈川大学で学ぶ後輩たちを支援し、卒業生の輪を、絆を作っていく、連帯し、大きな力となって社会貢献、更に大きく発展させて行く事を望んでおります。フロンティアクラブがその一翼を果たせたらと考えております。

昨年、教授からの紹介で学生の就職の相談をいたしました。しかしその学生の多くは、ターゲットとする企業の現況・特徴、給与水準、業界での地位、将来性などを殆んど調査把握しておらず、又、自分の将来設計も曖昧としているのが実状。こうした結果多くの学生は就職しても失望して退職してしまふ感じがわかりました。そういう迷える学生達にアドバイスしてやれる卒業生との仕組み、フロンティアクラブとの交流の中で出来ないものかと考えておりました。

フロンティアクラブにたくさんの方に参加していただき、この想いを実現して行きたいと思っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

フロンティアクラブ 各委員会の活動について

組織広報委員会

委員長 春 原 正三郎

(47法律卒)



春原正三郎委員長 (47法律卒)



村田龍也委員 (39経済卒)



清水玄委員 (59法律卒)

どの様な組織でも活動の活性化には参加人員数が左右し、特に本会においては会員を拡大することが急務と考えています。平成九年

十二月創立時には、二五〇名を超えていたものが現在一〇〇余名余りと大幅な減少を呈しております。会員数が多くなれば、組織が活発になり、また、枯渇してきた運営資金も充実してきます。今年度は、組織拡大、活性化を計るため下記の計画を実施したいと思っております。

- 一、新規会員募集活動
「フロンティアクラブ」入会案内のパンフレットをリニューアルし募集活動を確実にやっていきたいと思っております。大学が持っている卒業生名簿、某経済誌発行の職員録等の情報の利用は当然のことですが、各会員の皆様においての友人のご紹介が何よりです。皆様が一人数紹介していただきますと二〇〇余名の会員組織になります。ご協力お願いします。
- 二、会員相互の懇親を深めるための企画、イベントの開催
昨年に引き続き、懇親会、ゴルフコンペ等といった企画を進めていく予定です。会員でない方が懇親会に参加されたことにより新たに入会された例もあり、会員募集にもつながりますので積極的に進めていきます。
- 三、広報の充実
本会の活動をPRしていくために、ホームページの活用を益々充実した内容を積極的に更新していきたいと思っております。また、会報も年一回ほど発行の予定です。皆様の原稿をお待ちしております。
- 四、教職員、在学生、フロンティア奨学生OBとの連携強化
会員同士の懇親を深めることだけではなく、教職員、在学生、奨学生OBとの親交を深めることがクラブの目標である母校、学生支援に繋がると思っています。